

*ana*,  $2n=60$ ; *H. tokudama* f. *mediopicta*,  $2n=60$ ; *H. nigrescens* f. *elator*,  $2n=60$ ; *H. kikutii*,  $2n=60$ ; *H. kikutii* v. *yakusimensis*,  $2n=60$ ; *H. caput-avis*,  $2n=60$ ; *H. kiyosumiensis*,  $2n=60$ ; *H. hypoleuca*,  $2n=60$ ; *H. longipes*,  $2n=60$ ; *H. tardiva*,  $2n=60$ ; *H. tardiva* v. *takina*,  $2n=60$ ; *H. chibai*,  $2n=60$ ; *H. undulata*,  $2n=60$ ; *H. undulata* v. *albomarginata*,  $2n=60$ ; *H. lancifolia*,  $2n=60$ ; *H. rectifolia*,  $2n=60$ ; *H. opipara*,  $2n=60$ ; *H. clausa* v. *normalis*,  $2n=90$ ; *H. clausa*,  $2n=90$ ; *H. ventricosa*,  $2n=120$ ; *H. venusta*,  $2n=60$ ; *H. ×amanuma*,  $2n=60$  and *H. capitata*,  $2n=60$ .

### ○ブータン産 *Lespedeza Griffithii* の芽生え (大橋廣好) Hiroyoshi OHASHI:

A seedling of *Lespedeza Griffithii* from Bhutan, E. Himalaya.

ハギ属植物の子葉は地上生で対生するが、胚軸に対して左右相称ではなく一方にややずれており、また子葉の中肋に対しても左右不相称である。このことは既に前川教授が指摘しておられるが(植研 19: 292, 1943), これは大部分のイワオウギ族にみられる特徴でもある。次の第1および第2 尋常葉は単葉で対生し、子葉の着く位置と十字対生に並ぶ。第3 から第5 葉にかけて、単葉か複葉か、あるいは単葉の場合には対生が続くか互生に変るかの変異が現われ、種またはある種では個体によって異った形式をとる。*Lespedeza Griffithii* の芽生えでは第3 葉は3 小葉をもつ葉となり、以後はこれが互生に並び、成体の葉序となる。この点は本種の固定した形式と思われるが、属としても普通の型である。

表紙カットの図 *L. Griffithii* の芽生えは、1967年5月6日プナカ附近の *Pinus Griffithii* 林中で種子を採集し、1968年5月7日東京で播いて発芽させたもののうちから6月9日に描いた。

このハギはブータン特産の種類で、*L. macrostyla* や *L. eriocarpa* に近いが、萼や莢が異なることで区別できる。Schindler は本種を *Campylotropis* として記載したが、属の範囲を大きくすると新組合せが必要となる。

***Lespedeza Griffithii* (Schindl.) Ohashi, comb. nov. *Campylotropis Griffithii* Schindler in Fedde, Rep. 11: 343 (1912)**

This shrub, endemic to Bhutan, grows in sunny dry mountain valley of subtropical region at an altitude 1,400 m above the sea. On 6 May 1967, I collected the seeds of the species in W. Bhutan, and then on 7 May 1968 sowed them in Tokyo. A seedling of the plant raised from the seeds is illustrated on the cover of this Journal. It is interesting that the cotyledons are epigealous and that the first two leaves succeeding the cotyledons are simple and opposite.

(東京大学理学部植物学教室)